

(2) 講 評

○委員長 それでは、先ほど検討した二つの課題についての講評ということで発表させていただきます。

まず、最初の衛星干渉SARによる高度な地盤変動監視のための電離層補正技術に関する研究。SARの画像というのは面的に地盤変動を把握できるという意味で非常に有効な手法であって、その精度を上げることは大変重要なことだということ、それから、既にDEMを使った水蒸気の補正というふうに着実に研究が進んでいるということでもありますので、この研究はこのまま鋭意発展させていただきたいということがあります。

ただ、ちょっとつけ加えさせていただければ、電子基準点そのものが動いていることはわかるので、点的ですが、SARの中に含まれる電子基準点の動きをも組み入れて、電離層の研究で精度を上げると同時に、地上のデータを組み入れて精度を上げるということも考慮しながら進めてほしいということ。

それから、もう一つは、地震が発生した後、速やかに変動域を明らかにしたい、伝えたいという意図がかなり強いのですが、予知の段階で、先ほども御前崎の話をしましたが、水準測量等で変動があった場合に、地震が起こるかどうか検討するというようなときにSARを使えるかというあたりまで含めて、予知のほうでも使えないかみたいなことを検討すると、もっと有効になるのではないかな。そのためにも精度を高める必要があるということですので、その辺を含めて研究を進めていただきたいということ。

2番目のハザードマップ作成支援のための防災地理情報の効率的整備手法に関する研究。これは、250mメッシュを50mメッシュに高精度化するというのは今後の防災対策をする上で非常に重要であるということで、この研究は大いに進めていただきたいということですが、タイトルに関しては、ハザードマップ（地震防災・液状化）作成支援のためと、括弧つきで目的、目標を明確化したほうがいいだろうというのが委員の皆さんの意見でした。そういうことなので、二つの目的に特化した形で研究を発展させるという方向で検討してほしいということ。

それから、公表に関しては、利用者の立場には、一般市民の立場と行政の立場という二つあって、それぞれ使い方が異なるということがありますので、情報の公開の仕方についてはそれなりに配慮して行ってほしいということがあります。

特に、現状を考えると、この中では含まれていませんが、自治体の職員の教育、自治

体の職員がどういうふうにはazardマップを使うかみたいなことに関して、情報を出すだけでなく、使い方に関しても、指導するというか、検討されたほうがいいだろうということと、一般市民の方も、実は地理院の情報は公開されているのだけれども、どうしたら使えるか、本当に使えるか、余りその辺が伝わっていないということがありますので、これ自身というよりも、もう少し広い範囲で、地理院の情報を一般市民も使えるような広報の仕方を検討したらどうかということがありました。

この二つはそういう意味で進めていただきたいということですが、最後に、今の情報の公開にも関係がありますが、いわゆる地理空間情報の公開・利用、それから使い方について、地理院が行政的に考えるだけではなくて、研究としてこのあたりを考えるようなことを検討したらどうかという意見が出されましたので、技術的な研究ばかりではなくて、公開の仕方とか、行政の仕方についても研究として扱うようなことを少し検討されたいということです。

以上が講評ということで、提案されている二つの研究は非常に重要ですので、鋭意進めてほしいというのが委員の意見ということです。